



昭和23年岡山県倉敷市生まれ。京都薬科大学を卒業後、漢方専門問屋に勤務。漢方の伝統を受け継ぐ柴田良治先生に師事。昭和51年、漢方専門の北山漢方薬局（現 寿元堂薬局）を開設。昭和60年、「リビングくらしき」に漢方の連載コラムを開始。25年間執筆を続け、現在も「続・陰陽虚実」として継続中。平成元年、平成を代表する漢方処方集「黙堂柴田良治処方集」を編集。平成4年、漢方研究会「黙堂会」理事長。

今、漢方専門問屋に勤務。漢方の伝統を受け継ぐ柴田良治先生に師事。昭和51年、漢方専門の北山漢方薬局（現 寿元堂薬局）を開設。昭和60年、「リビングくらしき」に漢方の連載コラムを開始。25年間執筆を続け、現在も「続・陰陽虚実」として継続中。平成元年、平成を代表する漢方処方集「黙堂柴田良治処方集」を編集。平成4年、漢方研究会「黙堂会」理事長。

●内容から一部抜粋

- 漢方は「中国の医学」ではなく「日本の医学」！
- 効果の出やすい漢方薬の剤型は？
- 「薬を効かせる」のは漢方家の腕次第
- 「風邪なら葛根湯」は大間違い
- 漢方は一人一人に合わせて薬を選ぶ
- 漢方の古典は知識の宝庫
- 生薬を加減するだけで効果が劇的に変わる
- 日本で消費されている漢方薬の大半がインスタント

著者の北山進三さんにインタビュー

漢方を知ってるつもりのあなたに読んでほしい 新刊・漢方読本 「誤解だらけの漢方薬」

3月3日
書店発売

岡山リビング新聞社から出版

岡山リビング新聞社は3月3日（木）、
「誤解だらけの漢方薬」を出版しました。
著者は「リビングくらしき」に、創刊以来
25年にわたって連載コラムを執筆してい
ただいている、漢方専門「寿元堂薬局」の
北山進三さん。なぜこの本を出そうと思
ったのか、その思いをお聞きました。

「本が出版になった。そんな考えたって、今のご感想は？」
「本作りがこんなに大変とは。正直、精も根も尽き果てた、というほど疲れしました。疲れに効果のある漢方薬を毎日飲んでたほどです（笑）。以前、専門書を編集した経験はあるのですが、今回はとにかく多くの人に読んでほしいという願いから、文章を分かりやすくするのにも苦労しました。」
「本書から、漢方に対する熱い思いが伝わってきました。」
「実は、私は漢方を信用していません。私には漢方薬がこれだけ普及して育ったので、薬自体は身近でしたが、「漢方薬は非科学的」という印象しか持っていなかったんです。父から勧められて漢方薬問屋に就職した当初も「なんとか早く父を納得させて、漢方から足を洗いたい」などと考えていたほどです。」
「そんな考えたって、今のご感想は？」
「たのに、何がきっかけでこの世界で生きることに？」
「就職して数カ月がたつたころ、湿疹（しっしん）が治らなかったことがありました。市販の薬を1カ月間飲んでよくならなかった。仕方なく見よう見まねで生薬（しょうやく）を組み合わせて漢方薬を作り飲んでみたら、なんと2時間弱で湿疹がほぼ治ったのです。その後も、偶然とは思えない出来事を体験し、漢方の面白さにはまっていきました。」
「一本を書いた動機は？」
「漢方薬がこれだけ普及している一方で、世の中にあふれている情報は誤解だらけです。ほとんどの人が、漢方とはこんなもの、というイメージを持って漢方を分かったつもりになっていますが、中味はでたらめです。例えば「風邪なら葛根湯」というのが常識になりつつありますが、漢方の考え方には実証と虚証があり、葛根湯は実証の風邪薬ですから、誰でもいつでも葛根湯がいいわけでは無いのです。そしてこれはほんの一例にすぎません。」
「西洋医学と漢方とどちらが優れていると思いますか？」
「体の調子の悪い局所を見つけて治す西洋医学の手法と、体全体を整えていく漢方の手法を比べると、どちらにも長所と短所があり、どちらが優れているとは言えません。それぞれの特徴を生かしていけばよいだけです。」
「本物の漢方が消えていく」と、どちらにも長所と短所があり、どちらが優れているとは言えません。それぞれの特徴を生かしていけばよいだけです。」

本物の漢方と出合える本 岡山県下主要書店で販売

病気で悩んでいる人にも必読の書

このほど、岡山リビング新聞社が出版した「誤解だらけの漢方薬」は、「本物の漢方が消えていく」「世の中に氾濫（はんらん）している漢方の情報は誤解だらけ…」と危機感を募らせた北山進三さんが、漢方の伝統を絶やしたくない一心で書き上げた漢方読本です。これを読めば、今までの誤解が解け、「本物の漢方とは何ぞや」が理解できるはず。

また、月経痛、不妊症、冷え症、皮膚病、関節リウマチ、耳鳴り、健忘症、心の病気…など、漢方で治りやすい病気と処方例についても紹介しているので、病気で悩んでいる人にも読んでほしい一冊。古典や処方名にはすべてルビがふってあり、初心者にも分かりやすい一般書です。

3月3日発売。岡山県下の主要書店で手に入るほか、岡山リビング新聞社でも販売します。

著者	北山進三	定価	1300円（税別）
発行	岡山リビング新聞社	サイズ	四六版227頁

